

平成30年度地域づくり人材養成講座 第2回講座開催概要

日 時	平成31年1月16日(水) 13:30~15:30
場 所	御嵩町西田自治会集会所
コ-ディネーター	NPO法人ぎふNPOセンター 理事長 野村 典博 先生
受講者	18名
主催者	岐阜県環境生活部県民生活課 御嵩町民生部住民環境課
内 容	<p>1 活動発表 地域で活動されている3名の方にお話を伺いました。</p> <p>○<u>可児市若葉台高齢福祉連合会 代表 村上 博三 氏</u></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>可児市内でも有数の高齢化が進んだ地区だが、「高齢化地域」ではなく、幸せに年を重ねるという意味の「幸齢地域」を目指し、平成24年度に活動を開始。</li> <li>当初、自治会で同様の「地域」を作ろうという動きがあったが、様々な意見を持つ住民がいること、自治会としてやらなければならない行事が多いこと、そしてノウハウがなかったことから、住民合意の下、地域の福祉活動を高齢福祉連合会で行うことにした。</li> <li>利用者は年々増加し、平成29年度は16,000人の方が利用しており、活動が浸透していると感じている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援者にとって活動しやすい環境であり、支援者自身が「人のためでなく自分のことだ」と考えられるようになると継続活動につながる。</li> <li>今年度から新たに自立支援事業として、空き家の処分など自治会では解決しづらいことを解決に導く「困り事なんでも相談」、倒れた時に親族への電話や留守番をする「緊急支援」、隣近所で行う支え合い活動のシステムを構築する「安心ネット(平成31年3月活動開始)」を実施。</li> </ul> <p>&lt;主な活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わかば302(ウォーキング)、認トレ教室、はつらつ運動教室、健康麻雀教室、ダンディサロン(民謡踊り)、寺子屋(脳トレ)、なごみの会(手作りランチ)、ふれあいサロン、ふれあい菜園(家庭菜園で採れた野菜の販売)、里山バーベキュー、アッシーくん(無償バス)、よりそいネット(ごみ捨て、歩行介助等)、ちょこっと支援(庭木の剪定等)</li> </ul> <p>○<u>各務原市八木山地区社会福祉協議会 事務局 清水 孝子 氏</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区の高齢化が進み、子どもたちとの同居や坂の少ない地域への転居する住民が多くいる。この地で最期まで暮らしていけるように、人々が「繋がって支え合う」まちをめざして活動している。</li> </ul> <p>&lt;ささえあいの家とは&gt;</p> <p>平成26年1月に空き家を借りて自分たちで改装し、活動の拠点として開所。地域の人々が気軽に立ち寄り交流できる場とした。囲碁や絵手紙等趣味として楽しめる教室や認知症等暮らしに関する内容を話し合う「暮らしを語る会」など、様々な催しを行っている。ささえあい活動センターとして、活動の申込み受付、ボランティアコーディネーター、そして人々の相談場所としても利用している。</p> 

▲活動発表者の村上氏

▲活動発表者の清水氏

- 開所するにあたり、共通認識を持つため、何度も学びあいや語り合いを行った。様々な意見を持つ住民がおり、開所は難航したが、行政ではなく自分たち手作りの拠点があることが、現在の活動の強みとなっている。
- 講座の講師は地域の方が務めている。カルチャースクールと違い、学ぶだけでなく、学びを通して人と人がつながることに重きをおいている。
- 当番が常駐している。当番は強制ではなく、やりたい人・やってもよい人が、1日2時間半ずつ交代で担当している。当番がいることで、情報収集がしやすく、ささえあい活動につながっている。
- 現在76名がボランティア登録をしており、庭の草取りやゴミ出しなどの生活支援を行っている。支援する側も活動することで得ることがあることから、「生活支援ボランティア活動」ではなく「ささえあい活動」と名称を変更した。
- 地域福祉に関する情報を掲載した「八木山地区困ったときの便利帳」を発行、全戸配布したところ、ささえあい活動の依頼が飛躍的に増えた。活動を知ってもらいきっかけになったと思う。

○美濃加茂市川合西3号自警団 顧問 渡辺 孝男 氏



▲活動発表者の渡辺氏

- 平成19年度を境に刑法犯認知件数は減ってきているが、なくなったわけではない。もっと減らすためには、地域の防犯活動が必要と感じている。
- 当初は、防火・防災を中心とした活動だったが、「自分達の地域は、自分達で守る」を目的とし、「日本一魅力ある安全・安心な地域を自分達の手で自分達でつくろう！」をスローガンに掲げ、防犯にも取り組むこととした。
- 自分達だけでは難しいことでも、行政、警察と三位一体の活動をすることで、地域の安全を守ることができる。
- コミュニティを強化するため、防災訓練を基軸とした地域のつながりづくりに取り組んでいる。堅苦しいことはやめ、楽しく・遊び心を取り入れた防災訓練とした結果、3分の1ぐらいの住民が参加するようになった。
- 地域の防犯力を高めるため、美化活動やフォーラムの開催、「ながら見守り活動」を行っている。
- 定期的に発行すると押し付けになる可能性があるため、あえて不定期に「自警団だより」を発行し、イベントのお知らせや活動報告をしている。
- 活動を継続させるには、①まず行動する、②活動は強制せず一人でも地道に続ける、③地域の5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を徹底的に進めることが重要。
- 犯罪は、活動と活動の狭間で起こりやすい。自分達の地域だけで行う「点」の活動だけではなく、各団体との連携を密にした「面」の活動をしていく必要がある。そうすることでコミュニティも強化される。
- 日本一魅力ある安全・安心な地域を自分達の手で作るためには、活動をする人を一人でも増やすことが必要。自分からは動けない人でも、手を差し伸べることで参加してもらえるようになることがある。

2 質疑応答・意見交換

活動発表者にグループを回っていただき、受講者と交流してもらいました。発表を聞いて疑問に思ったことを質問したり、感じたことを発表したりと、どのグループも活発に意見交換が図られました。

◎野村先生コメント

意見交換の時間はあったが、活動発表者の方に聞きたいことが、まだたくさんあると思う。今日のつながりを生かし、活動を見に行ったり、もう一度話をしに来てもらったりするとよい。今回新たに芽生えた想いや熱を大切に、今後につなげていただきたい。



▲コーディネーターの野村先生